

金山町 議会だより

第186号

平成26年8月6日

発行 金山町議会

編集 議会だより編集特別委員会

〒968-0011

福島県大沼郡金山町大字川口字谷地393

☎ 0241-54-5341



7月31日に行われた「田沢橋 開通式」 平成20年度の橋梁設計から7年がかりで完成

〔6月定例会のあらまし 会期／6月13日～17日〕

(ページ)

町長・副町長の減給案否決、議案審議 … 2～3

報告、臨時議会、陳情の採択、議会報告会、人事 … 4～5

一般質問に4人登壇 … 6～9

6月定例会

町長等の給与減額議案否決



今年から作付が始まった本名下タ原農地

6月定例会は6月13日から17日にかけて開催され、条例改正や一般会計補正予算など8議案と、報告3件が提案されました。一部の災害復旧事業において、適切な事務手続きを欠き円滑な事業の進捗が出来なかった責任を明らかにするために提案した「金山町長及び副町長の給与及びその他の給付に関する条例の一部改正」については、賛成少数（反対6・賛成2）で否決されましたが、その他の議案は原案のとおり可決されました。一般質問には、4議員が登壇し町政をたどしました。

町長等の 減給案否決

改選だが これで良いのか

問 町長等の減額は、いくらか。

答 町長が約20万円。副町長が約11万円です。

問 職員の監督不行届きとはいえ、町長は30%、副町長は20%削減。間も無く改選になる。JR只見線の復旧を始め復興道半ばだと思う。給料削減で済ませるのか。

答 副町長と二人三脚で

やってきた以上、議会の皆さまのご理解を得て、残りの任期全力を尽くす考えです。

町長自ら責任をとるべきではないか

問 災害のさなか町長は何力月入院されたか。副町長は、何ほど苦勞されたか。責任は副町長にもあるのだと言う今回の提案。町長一人で責任をとるべきではないのか。

答 約2カ月入院しました。病気とは言いながら、自分の健康管理が出来なかった事については、申し訳ないと思っています。今回の提案は、副町長ともよく相談をして行いました。

問 復興に対する激務で、病気になるれたかもしれないが、健康管理が悪く60日間も休まれた責任は重大。他の人たちを道連れにするような町長では、がっかりしている。

答 ご批判は、甘んじて受けます、まことに申し訳ありません。

事務の不手際で 給与カットは適切か

問 事業の不適切さがあると、給与カット。こういう責任の取り方は本当に適切なのか。

答 責任の取り方には、「給与カット」「辞任」「汚点を挽回するため、今までの事を反省し、しっかり事業を推進する」があると思います。

問 こういう形で、一つの事務処理によって責任問題が出てくるようであれば、職員は率先して新しい事業に取り掛かる意欲が失われるのではないかと危惧する。

答 職員は、出来るだけの能力を発揮して事業を進めてきました。結果的にこのような事になった事は、職員も深く反省しています。職員に対しては訓告処分を行いました。ただ、事業を進めるのは容易ではありません。被災者は最大限に自己主張をされます。職員は泣き泣きやっている事もありました。全職員に対して

改めて指導していきます。

問 事務執行の厳しさは、重々認識している。

だから、事務処理の問題で給与カットが適切かと聞いている。

答 任期も残り4カ月。

この時期に余計な町政の混乱は避けたいと思い、このような判断をしました。

職員にもペナルティあつて良いのか

問 災害復旧事業のために通常予算の倍の事業を職員の増員無しで取り組んできた。職員までペナルティというのは本意ではない。

答 おっしゃる部分もありますが、やはり、事務の不振ですので致し方ないものと思います。

問 副町長の減額理由は。

答 やはり副町長は職員とは違います。町民・議会から選ばれた大きな責任を持っています。本人の意もあり、このようにしました。

反対討論 高橋信彦議員

今回の町長の対応は、2つの点から問題があると考えます。1点は、わずかな金で問題の解決を図り、本人たちがあたかも責任をとったと誤解をすることにあります。(中略)

2点目は、このようなことを続けていいますと、役場職員が委縮をしてしまいかねません。本来、職員は町民の生活の向上のため働いているわけです。時代の変化に伴い、町民から求められるものはタイムリーな施策の実行であり、そのためには前例のないことでも積極的に挑戦しなければなりません。公務員の最大の特徴は、失敗してもほとんどの場合、直接的な責任をとらなくて済むことでもあります。このことは功罪ともにありますが、続く言葉は、だから思い切つてやれということでもあります。町長がとるべき責任は、直接的な損害ではなく、管理責任であります。今回の場合、両名がとるべき責任は「再発防止の具体的対策を立て、実行に移す事」であり同時に、今回の反省点はその職責にある間は持ち続けるべきと考えます。失敗は成功のもとであります。安易な策を選ぶべきではありません。よって、私はこの議案に反対表明いたします。

賛成討論 五ノ井義一議員

私は賛成します。今、反対討論で削減額、町長20万円、副町長10万円、約ですが、微々たる金という表現がありました。とんでもない話です。我々は20万円もあれば1カ月も楽に生活できるのです。それを微々たる金の話とはとてもない話であると思います。町長も副町長も、また職員もこうやって反省の意を込めて削減提案しているわけであります。

そして、先ほど町長から反省のとり方ということで、3つ意見が出てきました。私は3番目の意見で、これからしつかり町政を取り組んでいくべきだと思います。そんな観点から30%、20%、給料削減は立派な責任のとり方であると考えます。よって、この議案に賛成します。

26年度 6月補正

議案審議

LED防犯灯

問 何基設置するのか。

答 515基予定。

問 設置するための支柱なども含んだ工事費も補助対象になるのか。

答 補助の対象は、新設・更新・取付柱設置など工事費全てを含んだ設置費用です。1基当たり設置費用に対して3万円を上限に補助します。(1基当たり地区負担が最低2000円あり)

空家解体

問 何件で地区は。

答 5件予定しています。

川口(1件)中川(2件)沼沢(1件)土倉(1件)。

問 解体事業は、小屋や車庫も対象になるのか。

答 母屋と一体的に解体する場合は対象とします。

問 100万円の補助金を出して更地にするのだから、土地は所有者のものだ。跡地の利用は、雪押し

場とか災害時の利用とか、公共のために使えるのか。
答 申請の段階で、所有者に協力をお願いしていきます。

少子化対策へ

問 今回5000万円を公共施設整備基金に積み立てる。基金の残高は。
答 積立前で、約1億8000万円です。

問 今後、子育て支援の経費、地域二体型ふるさと教育事業、川口高校の支援等に1億円超の一般財源が必要。今年度は復興基金からの財源があったが、財源対策をしないと少子化対策がいつまで続くか心配だ。繰越金が多く出た場合は、財源確保の環境整備が必要ではないか。

答 少子化対策、定住対策等の推進には、相当の決意を持ってあたつていきます。しっかりと財源を確保しながら進めてまいります。おっしゃるように専用の財源を持つことは、安定的・継続的に進める事ができます。今後十分に検討します。

株奥会津金山大自然 経営状況報告

6月定例会では、平成25年度の株奥会津金山大自然の経営状況報告が行われました。180万3482円の黒字決算が報告されました。報告に対する質疑の主なものをお知らせします。

フリーズドライの結果は

問 フリーズドライの試運転、結果報告を聞かせて欲しい。

答 試作品がどのように加工品に使われているかは、今後調査し改めて報告します。

電気料が高額だ

問 1時間当たり450円。粉碎機などの使用料も別にかかる。乾燥にかかる時間は、例えば赤カボチャの場合は72時間だから3万2400円。野菜類も2日間かかるから、2万1600円。農家の小遣い稼ぎの希望を叶える目的も含めて高額な機械を入れるという説明があったわけだが、本当に一般の農家が、この機械を使って、「俺もちょっと加工品つくってみようか」となるのか聞きたい。

答 農家の方がフリーズドライの機械等を使って、それで自分で加工しているという分については、なかなか保健所の許可とかそういった部分がありますので、農家の方は原料を大自然や加工業者等に納入して、その中で収入の増を図る、生産意欲を向上させると説明したと思っています。もちろん一般農家の方がフリーズドライの機械を借りてやっていくのは、当然結構なことですが、そういった観点で説明したと認識しています。

問 フリーズドライはすごく電気代がかかる、その事を考えないと商品化は容易ではない。今後の展望をどう考える。

答 フリーズドライを使った製品は、赤カボチャの原料を餅の中やソフトクリームに入れてやっています。あざき大根についてもソフトクリームに入れてみることを考えています。そのほかの法人も色々検討をしています。大自然だけでなく、町内の加工業者も含めて新しい製品をつくってもらうよう働きかけていきます。

5月29日 第3回臨時会

平成26年第3回臨時会は、5月29日に開催され、専決処分に関する承認についてと国民健康保険診療所条例の一部改正の2議案と、契約の締結に関する議決についての2議案が追加提案され可決されました。

第3回臨時会に提案された専決処分は、3件で本名下タ原地内の災害復旧費約1200万円を増額補正した一般会計補正予算や運営費繰入金約700万円を増額補正した特定環境保全公共下水道事業会計補正予算、そして地方税法の改正に伴う

税条例の一部改正です。国民健康保険診療所条例の一部改正については、文言の整理が主な内容です。追加提案された2件の契約の締結に関する議決については次の通りです。

▼開発センター耐震補強・大規模改修工事 大和建設工業株式会社

陳情の採択

◇「さらなる年金削減の中止を求める」意見書提出を求める陳情（全日本年金者組合岡沼支部）

年金制度の改悪によって、若者を中心に年金離れが一層進み、年金制度への信頼がさらに低下することが懸念されます。高齢者の生活と地域経済を守るためにも、「さらなる年金の削減を中止すること」を要望する意見書を関係機関に提出しました。

▼老人福祉センター改修工事 折笠木工所

今後の町長の対応は

問 下タ原の件ですが、災害時の対応を町長から何の言葉もない。予算を増額したり減額したり、臨時会を開かなければならなかった責任は町長にある。責任は重大だ。ただ職員が積算を間違ったという問題ではない。今後の町長の対応、どう考えているのか。どう責任をとるのか。

答 町長 今回の専決については、いかなるお叱りを受けても本当に仕方のないことだと思っています。災害復旧の中で各関係課とも少ない人数で精一杯事務を行いました。特に技術関係については我が町ばかりでなく非常に各町村とも大変な技術力の不足で事業に支障をきたし、住民に迷惑をかけた。人事権その他について全て私の責任と思っています。最大の私は責任を取ります。



生育順調な赤カボチャ

議 会 報 告 会

情熱を持って
町の将来を導いて

私の住んでいる越川地区は町内でも高齢化が非常に高く、限界集落と言われる地区になってしまいました。これを少しでも解決する方法があれば良いのですが何も打つ手がないのが実情です。3

川口温泉も
整備して欲しい

予算の中で、大塩と湯倉の温泉改修に、それぞれ3000万円ずつ補助が出る話を聞きました。川口にも温泉があり、水害後にダメになりました。現在只見線の列車は川口駅までです。川口温泉は、駅に一番近い温泉です。観光客も利用できます。代行バス等の待ち合わせにも利用され

小集落でも
開催して欲しい

平成26年度町一般会計
予算の内容が資料により
説明ありましたので良く
分かりました。早速説明
があったLED防犯灯を
下大牧に8基設置したら
大変明るくなりました。
また6月から空住宅に2

■ 人 事

◆人権擁護委員候補者

長谷川 美喜子 (西谷・62歳)
星 俊子 (中川・65歳)
横田 耕一 (横田・68歳)

小 林 和 衛 (本名・ 53歳)	渡 部 勘 治 (田沢・ 63歳)	横 田 敏 宏 (越川・ 63歳)
----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------



仮整備が進む大塩グラウンド

奥高伸議員の 一般質問



『どうなる大塩グラウンド』

安全・使いやすさを考え整備する―町長

問 町営野球場は県に土砂置き場として貸与されてきたが、工事も終わって今年度中に町に返還される事となった。県はグラウンドをどのように整備して町に返すのか。

答 町長 野球場及びサングラウンドに盛土し、表面処理後、返却される予定です。

問 町は貸し出す時に、返還にあたっては県によって「多目的グラウンド」として整備後に返されると説明してきた。どこで契約内容が変わった。

答 教育次長 最初にお貸しする段階では、多目的広場ということでしたが、県として整備できる部分と町で考えていた部分に

若干の相違があります。今後県と協議していきます。

問 整備後はどのような競技が出来るのか。広域的な大会も開ける整備も必要。また周辺は只見川をはじめ危険箇所も多い、環境整備と共に安全対策も必要ではないか。

答 教育次長 町としては現在立ち上げています

大塩運動場整備検討委員会の中で協議していきます。それに基づいて平成26年度に実施設計を行い、平成27年度に整備工事を実施する計画です。野球やソフトボール、グラウンドゴルフ、ゲートボールなど色々な種目があります。町最大の広場になりますので、トイレや休憩

施設などの整備も維持管理経費を考えた最終的な見通しを立てて考えていきます。また、安全対策についてはしっかりと実施します。只見川沿いや水路については柵を設置します。町道とグラウンド（広場）の高さが平らになるので危険のないように対応していきます。

『バス停に待合所の設置を』

乗合タクシーの利用促進など総合的に判断する―町長

問 町営バス、スクールバスの多くの停留所には待合室がない。バスの利用者の多くは高齢者や病人、子供たちと社会で弱者と言われる人たちだ。悪天候、特に冬の吹雪時など考えると待合所は必要だと思いませんか。

答 町長 ご指摘のとおり町営バス等が悪天候の場合などに利用しにくい

事は承知しています。これについては利用状況の把握に努め、原則各家庭まで送迎する乗合タクシーの利用促進等により総合的に対応したいと思っています。

問 町営バス利用の時間帯には乗合タクシーは運行されていない。運行本数も少なく早めにバス停で待つこととなる。

答 町長 私は「支えあ

いの町」を掲げております。出来れば隣近所や何らかの形で助け合えればと思います。バス停を整備する事は必要かと思いますが、町内すべてのバス停を整備する事は現実的に無理です。一部のバス停に限って整備をする

問 高齢者にやさしい町づくり災害復興としても

見える形の事業となる。地元業者でできる事業で予算もそんなに大きいとは思わない。

答 町長 確かに理解できる部分もあります。しかし、町は各地区からの要望など色々な事を実施しなければなりません。優先順位・公平性などを良く判断しながら検討します。



今年のゴールデンウィークの様子



横田正敏議員の 一般質問

『大胆な産業創出による現状からの脱却について』

徹底的に話し合うー町長

問 長谷川町長も2期8年の任期も残すところ少なくなつた、町長として取り組まれた、町政の最大の課題は何であつたか、またその成果はどうだったのか伺う。

答 町長 最大の課題は人口減少問題。成果としては、乗合タクシーの実現、川高の存続問題など議会を初め関係各位のご協力により一定の成果を

上げたものと思います。この3年間は豪雨災害からの復旧に全力を尽くしてきました。

問 次期町長選の出馬についてはどう考えているか。

答 町長 結論から申し上げますと、ここでは申し上げられません。あと4カ月理想の社会に向かつて常に町民とも、皆さんとも、役場内部でも良く話し合つて、本当に崖っぷちに來た我が町の事を徹底的に話し合つていきます。

問 少子化、高齢化は、全国的な傾向であり自治体の失政とは言えないが、過去の金山町から見ても、現在、高齢化率でも、子どもの割合でも県下59市町村で、ともにワースト1位になった要因は何だと考えられるか伺う。

答 町長 町では元来農林業を主体にした産業構造でしたが、昭和30年代からの電力供給基地や地

下資源開発。昭和40年代の米の生産調整。昭和44年の大災害からの公共事業の増加等、従来からの産業パターンの変化により世の中の動向に影響されにくい持続可能な産業働く場が生まれにくかつた事情があつたと認識しています。

問 6次産業化を施策として掲げて、すでに3年が経過した現在の6次産業化の実態と今後の推進策を伺う。

答 町長 山菜やきのこを利用した6次化。特産の赤カボチャ、エゴマ、米、大豆等を使った6次化を各事業者が工夫しながら実践しております。

町としても支援してまいりましたが、昨年度導入した加工用機械を積極的に利用し、さらなる高付加価値品の開発に取り組みたいと思います。

問 昨年度導入した加工用機械「フリーズドライ」について、「大自然のため

に買ったのではない」との町民の声が多い、この町民の声に町はどう答えるか。

答 産業課長 一般町民も使えますが、町内の加工業者等に使っていただき高付加価値の商品を作っていたら、加工業者に農林業者が産品を納めることで所得の向上を図っていたら、事を想定しています。

問 町で購入したという意識を持って、利用方法について検討していただきたい。

答 産業課長 おっしゃるとおりですので、そのような形で進めていきます。

問 6次産業化をすすめる上でも「道の駅かねやま」の存在意義は大きい。道の駅の目的は「道の駅を核として金山町の産業の振興を図る」ということだった。そのために多額の公費を使って改造した。目的達成できるような経営と努力がなされて

いるか、現状と今後の方策を伺う。

答 町長 昨年4月26日にオープンし今年3月までに約3万1000人の入場者がありました。今年度の4月、5月の2カ月で約6000人の入場者がありスタートは上々と感じております。食事の提供や直売施設での販売を通じて、町の農産物や特産物、加工品の生産振興に寄与しました。ただし、直売施設での町内農産物の出品数が少ないなど1年目の反省点もあります。今年度は出品数を増やすべく、施設管理団体で出品者への声かけや各地域へ出向く集荷方法、販売手数料を低くできないか検討中です。また、6次化の一環として赤カボチャを加工したソフトクリームの販売を始めました。町として昨年以上の成果が上がるように指定管理者に指示なり指導をしていきます。



寮生の安全でおいしいお弁当を「検食」

高橋信彦議員の 一般質問



『2カ月経った若桐寮の運営は』

みんなで寮生を見守っていくー町長

問 「若桐寮」の運営については様々なご苦労があるかと思われませんが、浮かび上がったきた問題点は何か。また、その対策について伺う。

答 町長 現在の問題は3つあります。一つ目は、設備の問題です。放送設備や電気設備等様々ありますが、リース会社と相談の上解決策を進めていくところですが、2番目は

運営上の問題です。寄宿舎と若桐寮は、県営と町営の違いがあり、それぞれに出来る事出来ない事があります。高校と打ち合わせを行い解決に向けて進めています。3番目の問題は町職員が寮運営に

素人である事です。より良い寮の運営が出来るよう高校・舎監・寮生等と話し合いを行い、他の寮の運営状況を研修しながら進めています。

問 高校は3時半に下校

出来るが、入寮時間は5時と聞いたが。

答 教育次長 5時から寮が開きますので、それまでは学校で勉強なりクラブ活動をしています。

問 現実には川口駅周辺で時間をつぶすというようなことを聞くが。開寮時間を早める考えは。

答 教育長 高校生の生活に関する事については高校側の協力を得ながら生徒指導上の問題が生じないようにしていきます。

問 時間については、寄宿舎（県営）と同じか。

答 教育次長 各時間については寄宿舎と同じ時間設定にしています。

問 夕食については夜7時までには食事を終わらなければならぬと聞くが。

答 教育長 夕食は5時半から7時までです。食生活法で料理をしてから何時間以内に食べなければならぬと決まっています。その他に入浴時間の問題やテレビの視聴

時間など課題はあります。1年間運営してみて、必要があれば変更しながら進めていきます。

答 副町長 施設を作れば色々な決まりは必要です。今回の場合は、県営の既設の寮との整合性も必要です。今回整備した寮は

教育的施設の色が濃いと考えます。高校生のうちから社会に出て困らないような決まりに基づいた生活することも重要でないかと思っています。

『町の温泉施設をどう生かす』

特性を生かしてPRー町長

問 町内の温泉施設については、大幅な助成をしながら町の主力観光資源にしたいと言う意気込みは伝わってきましたが、施設改修後の金山町温泉の全体の姿がどうなるのか。どのようにしたいと

思われているのか伺う。

答 町長 豪雨災害で大きな被害を受けた大塩、湯倉温泉の共同浴場の改修に町が助成します。2つの温泉施設は共同浴場という位置づけのみならず、町を訪れた方々にも

開放されます。さらに、老朽化した国民保養センターを今年度取壊し、来年度継続の施設を建設する予定です。この施設は、2種類の泉質を楽しみながら、休憩し食事などがとれる施設を目指してい

ます。この他にも各地区に共同入浴施設があります。豊富で泉質の違う温泉が幾つもある事を金山町としてアピールできれば他町村にはない特性を発揮できると考えています。



早期の工事着工が望まれる越川の狭窄部



黒川廣志議員の 一般質問

『河川整備計画に町の要望をどう生かすのか』

県に強く要望していくー町長

問 町が検証を委託した山村振興調査会の23年7月の豪雨災害の調査・検証結果は、災害の拡大要因として①堰上げ（ダムで流れを止める）②堆砂（ダムで土砂が溜まる）③射流（ダムゲートからの鉄砲水）と指摘している。また、町の復興計画では①河道掘削、浚渫②堤防のかさ上げ③浸水地区のか

さ上げ④ダムの改良等を要望している。県との協議で要望がどう盛り込まれるのか、進捗状況を伺う。

答 町長 水害調査報告書を河川整備計画にどう盛り込むかについてですが、災害の拡大要因の堆砂については、河川整備計画の中に堆砂処理の必要性を位置づけるよう、強く県に要望しています。また、

堰上げ効果と射流効果の解消については、河川整備計画の中に盛り込むべきことではなく、利水事業者がやるべき事業と考えていますので、事業者に対してダムの改良を強く求めています。特に射流効果の解消については、利水事業者より本名ダム下流に導流壁を設置し、上田ダム下流では擁壁のかさ上

問 河川整備計画の中で目に見える形で堆砂除去をするという形で進めているのか。

答 副町長 利水事業者に対して目に見える堆砂処理をしていただきたいと、再三再四申し上げています。只見川圏域河川整備計画協議会の中でも委員として強く要望していきます。

『滝ダム湛水と堆砂対策をなぜ了解したのか』

了解していないー町長

問 電源開発株式の話では7月から工事に伴いダムの湛水（発電）と堆積した土砂排除計画について町は了解したという。年間土砂流入が20万m³、排除計画が同3〜10万m³、流入土砂の三分の一半分では近い将来滝ダムは埋没する。また、スルージン

グ（洪水時にダムの水位を下げる）を通過させる方法（も関係機関と検討を進めるとしているが被災者として納得できない。なぜ了解したのか。

答 町長 滝ダムの浚渫量についても、運転再開についてでも了解していません。もっと浚渫量をふやすよう、堆砂処理の大規模な対策を示すよう強く要請

をしています。ただ、湛水については、滝ダム下流の護岸工事と滝橋撤去工事の際に、滝ダムの閉門が必要という説明を受けています。滝ダムは危機的状況であり、洪水後も下流の本名調整池に相当量の土砂が流入しています。昨年度1年間で堆砂処理を行った量と同程度の約10万m³が



「少子高齢化社会の中で」

本年度、金山町の小学校新入生は、横田小、金山小で計4人であった。金山町は、県下59市町村中子どもの割合が最下位であり、正に少子化非常事態である。このことは金山町の将来にとって、あらゆる面でマイナスである。かつて、長い間、政党の要職にあったある政治家は、「戦後の長い間の自民党の政治は殆ど成功したが、過疎を作ったのは失敗だった、これは政治の責任である」と言われた。

「現在の少子高齢化と過疎の問題は、農業基本法の制定に機縁する。法の目的とその施策から考えても、生産性の悪い農村の農業従事者を減らさなければならなかった。シニヤン農業、これは、当時の農村の農業を表現した言葉である。若者は都市へ、農村に残ったのは、じいちゃん、ばあちゃん、かあちゃんだった。この結果、都市は過密、農村は過疎になると工場誘致に懸命になった。政治は恐ろしい」と高齢者の一人が述懐された。

少子高齢化に悩む町村が多い中で、かつては「貧しく、荒れた山奥のさびれた寒村」と言われた村が、今は「日本一健康長寿で裕福な村」と注視されるようになった村もある。この村には、診療所とデイサービスその他に大浴場やトレイルニングルームがあり、24時間の訪問介護も行っているヘルシーパークは、村民の心身の健康増進を目的に作られた施設である。これも政治である。

わずか17才で莫大な借金を抱え切羽詰った米沢藩の藩主になった鷹山が財政を立て直し改革に成功したのは「民を宝」とし、民を愛し、民のための政治だったからだと言われる。これも政治である。

金山町の現状を打開し、若者が定住し、子どもが集う健康長寿の町を築くのも不可能ではない。「成せば成る。成さねば成らぬ何事も、成らぬは人の成さぬなりけり」鷹山公の詠んだ歌である。いつの時代も為政者の政治の良し悪しが住民の生活を左右することを思う時、政治の重大さを痛感する。

(横田 正敏)

只見川圏域河川整備計画 議会特別委員会で県庁要望活動

6月4日に、町議会平成23年新潟・福島豪雨災害対策特別委員会（委員長 奥高伸）で、福島県土木部河川計画課において、只見川圏域河川整備計画の進捗状況確認と河川改修事業への要望を行いました。

県の猪狩河川計画課長と矢内副課長に対して早期の河川整備計画の樹立と、事業（護岸構築・狭窄部の開削・宅地のかさ上げ等）の速やかな着工を要望しました。



河川計画課での要望活動

ごあんない

次回の定例会は、9月12日ごろ開会の予定です。

一般質問は9月16日ごろとなります。

お気軽に傍聴においで下さい。

○役場1階の受付で「傍聴券」を受け取り
4階の議場においで下さい。

〔発行責任者〕 議長 長谷川盛雄
〔編集委員〕 委員長 奥高伸
副委員長 青柳靖美
委員 横田正敏
馬場清次
黒川廣志
次回、金山町議会だより第187号は、10月下旬ごろ発行の予定です。